

きんもくせい

令和8年 学校教育だより

March **3** 第368号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線623)

編集目標 学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育



初めての持久走記録会

写真提供/鶴瀬小学校

もうすぐ卒業

勝瀬小学校 六年

佐野 結菜

春に桜が咲く

桜の花びらがひらひら落ちる

桜の花びらが落ちると

新しい場所での生活

新しい楽しさ

新しい難しさが

見つかるだろうな

はじめに

不登校は学校のみならず、社会全体としての大きな課題である。文部科学省が毎年行っている「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」令和六年度の結果では、全国の小・中学校の不登校児童生徒数は三十五万三千九百七十人で過去最多となり、増加し続けている。

本校では、ここ数年減少傾向にあるものの、不登校支援はどうかあるべきなのか、日々熟慮しつつ教育相談にあたっている。今回は、教育相談の機能を活用した多様な取組を展開し、生徒の自尊感情を高め、不登校の改善を図った実践についてまとめる。

活かした支援の取組

富士見市立西中学校 教諭 横山 雄大

① 教育相談部会について

週に一度、教育相談部会を開催し、生徒の様子の変化や悩みなどを共有し、スムーズな支援につなげている。教育相談部会には養護教諭やスクールカウンセラーも参加するため、それぞれの専門的な知見も取り入れながら、具体的な支援策を検討している。

また、隔週でケース会議を実施し、限りある部会の時間を状況報告のみで終始することなく、教師をはじめとする大人たちが、一人の生徒をどう支援していくべきかを時間をかけ、具体的方策を含め検討を図っている。



東中学校 2年 堀込 真央

修学旅行の実行委員として

修学旅行の実行委員として活動する中で、私は多くのことを学び、大きく成長することができました。準備期間中はやることも多く、思うように進まず悩むこともありましたが、その一つ一つが自分にとって大きな経験となりました。緑学年のみんなと修学旅行に行けたこと、この修学旅行を成功できたことを心から嬉しく思います。また、先生方が私たち学年委員だけでなく、この緑学年全体を信頼して任せてくださったことが大きな励みになりました。多くの成功を経験できたこの修学旅行で、実行委員を務めることができ本当に良かったです。感謝の気持ちを胸にこれからも進んでいきたいです。



② アセスメントの実施

よりよい支援をするためには、生徒一人一人を深く理解することが必要である。そのために、各種アセスメントを実施している。具体的には、二種類（外部のもの、学校独自のもの）の生活アンケートを各学期に回実施している。それらのアンケートは内容、結果の分析を行い、学校生活や授業での支援いじめ対応等につなげられるように職員全体で取り組んでいる。

③ 面談の機会の活用

年度初めの二者面談や夏休み、十月に行われる三者面談も生徒理解を深めるための機会と捉えて実施している。②で触れた学校独自の生活アンケートも活用をしながら、より充実した学校生活を送れるように各担任が保護者も含めて面談を行っている。

また、三月の年度末には、一、二年生の不登校が顕著だった生徒に管理職を含めた四者面談を実施し、次年度に向けてのモチベーションを高めている。

④ 相談室・保健室の活用

心のよりどころを増やすという意味でも、相談室・保健室も開かれた場所として開室している。保健室では生徒一人一人にとって、「心の傷」についてもケガと同じように丁寧に対応し、必要に応じて相談室などとも連携している。

心のよりどころとなる人や場所ができるだけ多くつくれるように心がけている。

⑤ 学習支援室の設置

本校では、「セルフスタディ

＝ 西中学校 教育相談 ＝

魅力ある授業

教育相談機能を 不登校

《学習支援室》
セルフスタディーはすてる



「はすてる」という名称で、学習支援室を開室している。保健室・相談室については利用者が重なることがあり長時間利用することができないが、現状はすてるは二部屋運用をしており、一日の中で、自分で決めた時間、自習などをして過ごすことができる。ふれあい相談員対応のもと、一人で気持ち落ちつけないように活用できるなど、一時的な利用はもちろん、教室復帰への足掛かりとなるような部屋として運用している。

⑥ 関係諸機関との連携

校内のスクールカウンセラーをはじめとして、警察・市教育相談室・子ども未来応援センター・児童相談所・医療機関、法務少年支援センターなど、様々な機関と積極的に連携している。それぞれの専門的な立場からのアドバイスを受け、一人一人へのよりよい支援につながるよう取り組んでいる。

おわりに

これらの多面的な取組の効果を測ることは今後必要であるが、これまで不登校が続いていた生徒が教室復帰したり、定期的に相談室登校ができるようになったりするなど、自分の現状に合わせながら学校とのかかわり方を自力で見出している生徒も多くいると感じる。

本校では、この実践と同時に期に「ウェルビーイング」についての学校研究を行ってきた。生徒一人一人がこの先の人生を幸せに生きていく力をはぐくむために、我々大人たちがどう支援していくべきなのか。困っていたらただ手を差し伸べるだけでよい支援と言えるのか。これらの答えのない問いに全教職員で真剣に向き合ってきた。これからも、一人の生徒に

特別支援教育

二つの交流会

勝瀬中学校教諭 小澤 真未

勝瀬中学校はやぶさ学級は、毎年秋、二つの行事を楽しみにしています。一つ目は、市内の中学校特別支援学級で行う「スポーツ交流会」です。この行事は、「市内の中学生で交流する場をつくりたい」という声をきっかけに、令和五年度から始まった会です。今年度は、体育祭種目をもとにした二種類のスポーツレクを、学校混合の四チームで

取り組みました。会のあと、参加した生徒の多くは、「新しい友だちができた」と嬉しそうに報告してくれました。中には、「小学校のときの友だちに再会した」という生徒もいました。二つ目は、学区内の小中学校特別支援学級で行う「はやぶさカップ」です。ふじみ野小学校・勝瀬小学校の児童が来校し、リレーや鬼ごっこなどのスポーツ

取り組みました。会のあと、参加した生徒の多くは、「新しい友だちができた」と嬉しそうに報告してくれました。中には、「小学校のときの友だちに再会した」という生徒もいました。二つ目は、学区内の小中学校特別支援学級で行う「はやぶさカップ」です。ふじみ野小学校・勝瀬小学校の児童が来校し、リレーや鬼ごっこなどのスポーツ

レクや質問コーナー、教室見学ツアーなどの仲良くなるうタイムを実施します。この会の特徴は、はやぶさ学級生徒が準備・運営を全て行うことです。小学生は、中学校での体験や先輩の活躍する姿を通して、自分の中学校生活をイメージすることが出来ます。中学生は、成長した姿を母校の先生や後輩に見せることが出来ます。生徒にとって大きな成長となる「スポーツ交流会」「はやぶさカップ」を、今後も大切にしていきたいです。

《相談室》



相談しやすい
雰囲気づくり

きるだけ多くの大人がよりよくなるかわり、多様な取組を展開しつつ、よりよい支援のあり方について考え抜いていきたい。

指導・講評

富士見市立西中学校校長 堀川 博基

多様性の時代、生徒は元より、社会の学校への価値観は激変を遂げている。登校することが必然である考えは、今は昔と言っても過言ではない。そんな時代でも、人は社会におけるつながりにおいて生きる事実を信じ、学校で：集団で：学ぶ生徒の育成を願い、不登校支援に尽力している。

■組織／生徒・職員へ機能する具体的な支援
■面談／建前でないリアルな面談
■環境／実際に機能する環境調整
■連携／専門機関の不慮な活用等実際に機能する教育相談を意識している。

でも：不登校改善の根幹は「学校を好きになる！」こと。学校生活と教育相談の充実、この両輪により不登校支援を進めている。

特別支援学校卒業にあたり

富士見特別支援学校 保護者 鈴木 敏之

この春、娘は特別支援学校の高等部を卒業します。小学部から十二年間をこの学校で楽しく過ごしました。娘が一歳のとき、急性脳症により一瞬で言葉と運動機能を失い、私たち家族は不安な毎日を過ごしておりました。しかし、特別支援学校の先生方との出会いにより、何気ない日常に感謝する気持ち^が芽生えました。

中学部の卒業式で担任の先生が「生徒たちから人として多くのことを教えてもらった」と感極まっていた姿に胸を打たれました。

昨年には、新幹線で北海道への修学旅行。事前の段取りやバリアフリー確認など、先生に多くのご配慮をいただき参加することができました。最終日、改札を出てきた生徒と先生の笑顔が本当に素敵でした。

支援を必要とする生徒に対し、先生方は我が子のように親身になってくれます。同時に、子どもたちの純粋さやひたむきな努力は、我々

に多くの気付きを与えてくれます。娘のお陰で、私も

数多くの心温かい先生方と交流することができました。地元の方々からのさりげない声掛け、先生方の温かい眼差し、そして何よりも子どもたちの笑顔。それら全てが、私たちがこの地域で前向きに生きる糧となっており、障害の有無に関わらず当たり前を支え合える、そんな成長を促してくれる素敵な学校でした。

この絆と感謝を胸に、卒業してからもゆつくりと楽しく歩んでいきたいと思えます。

街で見かけたら声をかけていただけると嬉しいです！



地域で輝く勝中生

勝瀬中学校

年間のベ千人を目指し、生徒たちが様々なボランティアに参加しています。

ふじみ野交流センターでは、演劇部や科学部が読み聞かせや実験教室を行ったり、有志が緑日の手伝いをしたりして、親子連れとの交流を深めています。

ふじみ野駅前では、赤い羽根・緑の羽根・災害義援金などの募金活動を行い、公共の

場で社会貢献をしています。

さらに、町内会や青少年育成市民会議が主催する夏祭りやもちつき大会、地区体育祭などに協力し、世代を超えた絆をはぐくんでいます。

「さすが中学生だね」や「おかげで助かるよ」などのお声掛けが、生徒の自尊心を強く押し上げ、また次の挑戦へと勇気を与えてくれます。

ボランティアへの参加は、本



校の教育目標である「進取・創造」、「多様性・成長」、「協働・貢献」を体現する場として、欠かせないものとなっています。

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

歩幅を合わせて

水谷小学校 保護者 小山内 千尋

母になって九年。騒がしくて慌ただしい、悩みの尽きない毎日ですが、それでもこの日々を愛おしく感じるの、子どもたちがたくさんの方に見守られて成長していることに気付けたからだと思えます。

昨年、長男は怪我の手術を受け、一か月の入院生活を送りました。心配性で寂しがりやの息子は、退院後、周りの視線に不安を感じるようにな

り、私から片時も離れられず、学校に通えなくなりました。どうしたらいいかと悩んでいると、養護の先生が「おはようと言いに来てくれないかな」と声をかけてくださり、そこから親子三人で学校に通う日々が始まりました。

笑顔で支えようと心がけながらも、先の見えない不安や次男の入園を控えた焦りに、度々心が折れそうになりました

た。それでも、クラスの隣の空き教室で過ごし、休み時間には先生や友だちが声をかけてくれる中で、息子は少しずつ笑顔と伸びやかさを取り戻していきました。公民館や野球チーム、地域の方々との何気ないやり取りも、息子の心をそっと温めてくれました。

多くの手に支えられて、子どもは自分の歩幅で前に進んでいける。息子に心を寄せてくださる方がこんなにもいて、親だけで抱え込まなくていいのだと思えたとき「息子は



中国とのつながり

ふじみ野小学校

ふじみ野小学校は、開校以来中国の小学校との交流を続けています。作品交流を中心に、年賀状の交換や図工での製作作品の交換などを今まで行ってきました。本年度は五年生が習字の作品を作成し、中国の小学校に送る準備を進めています。本校の校長室前や校内のいたるところには今までの交

流を通して、中国から本校に送られた多くの作品が掲示されています。また、本年度の子どもたちの作品は、来年度富士見市中央図書館や鶴瀬公民館にも掲示される予定です。

ふじみ野小学校は、いよいよ開校から二十七年目を迎えるようとしています。開校以来続いているこの伝統をこれか



丈夫」と腹の底から感じ、肩の力がふっと抜けました。手を繋いで通学路を歩いたかけがえのない四か月間を胸に、これからは我が子だけでなく周りの子どもたちも皆健やかであるようお願いながら、ともに歩んでいけたらと思います。

教育課題特集

夢ときぼうを



らも継承し続け、より多くの人たちとともに歩むことができる児童の育成を目指していきたいと思えます。

共に高め合い喜び合える仲間として

東中学校 部活動指導員 芹澤 博史

部活動指導員の活動も三月で丸八年。私の場合、ひとつの学年の子どもたちと接する期間は入部から引退までおよそ二七ヶ月間。さらにその休日に限定されます。しかし私が接している、こんな短い期間でも子どもたちは心身ともに成長します。そして、その傍らで私自身も成長させてもらっています。

子どもたちには「自分のプレー（行動）に責任をもってほしい」と思っています。なので、コミュニケーション時の私は敢えて察しの悪い大人です。子どもたちの発信の呼び水となるようなキーワードもなるべく出しません。でも子どもたちが自ら選択したプレーの「なぜ」を自分の言葉で説明できるようにするまで、それほど多くの時間は掛かりません。その成長スピードと伸びしろには本当に驚かされます。時にはこちらの想像の斜め上を行く選択に感心することも。自らの考えで選択できるように

うになると必然的にチーム力は向上します。上手く行かない時の修正力も備わる。

今年度、三年生最後の大会で印象的なことがありました。進退のかかった重要な試合、前半、東中は苦戦しますが、ハーフタイムにベンチに戻った選手たちの話合いと雰囲気

これまで感じたことのない熱量と迫力を感じました。兎に角、よく喋る！ネガティブな意見はなく、細かな修正のための意見が飛び交い、お互いを鼓舞する。後半のピッチに向かうキャプテンの「大丈夫、勝てる！」の声に皆が呼応し、「うん、勝てるよ！」と口々にピッチに向かう。そこにはもう指導者は不要のように思えました。なんて頼もしい光景だったか。サッカーを通じてひとつの目標に向かい切磋琢磨し成長した子どもたちの姿を誇りに思い、まだ後半が荒るにも関わらず涙腺は崩壊。結果、チームは自分たちの力で県ベスト8の成績を掴みます。



個性的で伸びしろだらけの子どもたちと、どう接すべきか、私自身も常にアップデートは必要です。でもそれで得られる喜びや悔しさを共感できる尊い経験は指導員として何にも代えがたいご褒美です。



つるせ台小

芝生を使ったたてわり遊び

つるせ台小は、校庭の芝生を使い、安全にたてわり遊びをしています。組ごとに分かれ、元気に楽しんでいます。

本年度も終盤を迎え、子どもたちの成長を感じる季節となりました。この一年の間、子どもたちは様々な行事を通して、多くのことを経験し、心身ともに成長することができました。子どもたちが生き生きと学ぶことができるのは、保護者の皆様や地域の方々の支援をはじめ、ご理解とご協力のおかげです。実りある活動ができたことに心より感謝申し上げます。学校TODAYでは、各学校の取組をお伝えする貴重な場です。来年度も子どもたちの生き生きとした姿をお伝えしていきます。この一年間ありがとうございました。今後とも温かいご支援をよろしくお願いいたします。



富士見特別支援

「食」について学ぶ

親牛・子牛に触れる体験やバターづくり、里芋の収穫体験などを通して、命の大切さを学びました。



富士見台中

スクエアード・ストリート（交通安全教室）

スタントマンによる事故現場の再現を通して、自転車に乗る時のヘルメット着用の重要性や交通ルールを遵守することの大切さについて考えることができました。



ふじみ野小

オータムフェスティバル

6年生が中心となって異学年グループでお店を出し合い、子どもも保護者も笑顔が溢れる楽しい1日になりました。

教育相談室のご案内

お子さんの教育上の心配事は、どんなことでもお気軽にご相談ください。

「相談内容」

- ・「学校に行きたがらない」「就学先に不安がある」「発達が気になる」「言葉がはつきりとしれない」など。専任教育相談員、スクールソーシャルワーカー等が対応します。

「相談方法」

- ・電話相談（匿名での相談も可）
- ・面接相談（電話で予約の上、実施）
- ・訪問・出張相談（公民館等や、ご自宅での相談も可）相談は無料です。

「教育支援センターあすなろ」

- ・登校できない状況にあるお子さんに対し、自立に向けた支援を行います。
- ・月々金の九時～十四時三十分

市教育相談室

- ・開室日：月々金（祝・祭日を除く）
- ・受付時間：午前9時～午後17時
- ・所在地：ふじみ野東4丁目4番地1号（ふじみ野小学校東側校舎）
- ・TEL：257-5310

Q「子どもが、もう、学校には行かないと言っています」

A「多くの方が、日曜日の夕方になると、さみしい気持ちになった経験したことがあると思います。学校に行き



吹奏楽部の活躍

吹奏楽部が沢山の地域の方を招いてクリスマスコンサートを開催しました。3月には定期演奏会もあります！

水谷中



水谷小

いじめ防止への取り組み

放送委員会は、いじめ防止月間に、インタビューやアンケート調査を行い、お昼の放送でいじめがなくなるよう全校に呼びかけました。



大学訪問・見学

進路・キャリア教育の一環として、生徒たちの企画で都内の4つの大学をグループごとに訪問、見学しました。

本郷中



3年生の初めての競書会

静かな雰囲気の中、体育館で競書会を行いました。練習の成果を発揮し、上手に書くことができました。

鶴瀬小



南畑小

狂言「柿山伏」を楽しもう

鑑賞やワークショップを通して、伝統芸能を身近に感じることのできる貴重な体験でした。

たかないと思うことは、誰にでも起こり得ます。しかし、不調や不安により、心身のエネルギーが低下すると、頭では、わかっていても、心と身体がついてこないという状態になります。朝、おなかが痛いと言っていた子が、「今日は、休んでいいよ」と言ってもらったから元気になる、夕方には、「明日は、行く。」と、学校に行く準備をします。でも、朝になると、また、おなかが痛くなってしまうということがあります。

学校に行きづらい子どもは、学校に行かないことで、少しだけほっとできます。しかし、多くの子どもは、不安な気持ちで、ずっと、このままでよいとは思っていません。昼夜逆転や、ゲーム三昧になるのは、本当は、学校に行く時間はずなのに、学校に行けない自分と向き合わずにいられるからという子もいます。

将来への不安や、「行く、行かない」というところも気にはなりますが、学校に行きづらいお子さんには、どうしても笑顔になるか、元気が出るかなど、子どもへの理解や、いたわり、あたたかさが重要です。また、保護者が孤軍奮闘するだけでなく、学校や子どもを取り巻く人々の力を必要とします。

学校に行きづらいことでお困りの場合は、一緒に考え、支えてまいります。教育相談室にもご相談ください。

教育委員会だより

英語教育（国際理解教育）の充実

○英語教育指導助手

富士見市では、8名の英語教育指導助手（AET）を配置し、日常の授業において、英語の音声やリズムに慣れ親しむとともに、英語を使用してお互いの気持ちや考えを伝え合う活動などを通して、児童生徒が主体的にコミュニケーションを図る活動を推進しています。



○イングリッシュサマーキャンプ

毎年、夏休みには「イングリッシュサマーキャンプ」を実施し、児童が英語に親しみ、英語を用いて意欲的にコミュニケーションを図る活動にも取り組んでいます。

令和7年度も、小学3年生、5年生を対象に実施しました。子どもたちは、ゲームや工作等の様々なアクティビティを通じて、AETとともに楽しみながら英語に触れることができ、英語学習への意欲やコミュニケーション能力の向上に繋がりました。アンケートからは「また参加したい」「楽しんで英語を話すことができた」など、たくさんの肯定的な回答がありました。



【グリーティング】 【ポイントゲーム】 【カード釣りゲーム】

○実用英語技能検定受験料補助

実用英語技能検定受験料の補助も行っており、英語に係る学力向上を図るとともに、目標をもって学習する児童生徒を支援し、さらに上級の試験に挑戦する意欲を高めています。

令和8年度より受験機会を広げるため、学年、金額の拡大を予定しています。詳細につきましては、4月以降配布予定のチラシをご覧ください。

世界に誇る麗峰を行く手に臨む富士見台」と校歌にも謳われている富士見台中学校。本校は、殿山の地でいつも富士山に見守られながら、「笑顔・希望・感動」に満ちあふれ、誰もが成長を

体育祭では、縦割りに団を結成し、応援合戦を行うのが、富士見台中学校の伝統です。上級生が下級生に応援の仕方などを丁寧に教えながら、当日は、大声を出して応援をしたり、ダン

「ハリ☆ふじみ」の大ホールに各クラスの迫力ある歌声と美しいハーモニーを響かせることができ、合唱を鑑賞していただいた保護者の方々からも、「子どもの成長を感じることができまし



感できる学校」を目指し、日々、教育活動を展開しています。学校では、いつも元気な挨拶の声や響き渡り、生徒や教職員は、生き生きと授業を行い、行事などにも積極的に取り組んでいます。

とのやま スピリッツ

富士見台中学校教頭 鷲尾弘樹



スを踊ったりします。クラス全員による大縄跳びもあり、授業だけでなく、昼休みや放課後にも練習を行い、クラスの団結力が高まる取り組みとなっています。また、合唱コンクールでは、「キ

た。」と大変好評でした。富士見台中学校の目指す生徒像は、「自立のために自律できる生徒」です。雄大にそびえ立つ富士山のよう、生徒には勉学に励みながら心豊かに、遅しく、生き抜く力を育んでいって欲しいと考えています。



体育祭閉会式 表彰状授与の場面

編集日記

「通級指導教室」をご存じの方が年々増えて、楽しく通う児童生徒も増えていくと伺った。そこで、令和七年七月に文部科学省より公表された「令和五年度通級による指導状況調査結果」についてまとめる。

通級は、平成五年から始動しており、当初は全国総数一万二千人ほどからのスタートであったが、令和五年度は二十万三千人を超え、前年比十五千人となっている。

これは小学校から高等学校までを含めた人数だが、右肩上がりの状況にある。

おおよその内訳として、小学校・十六万人、中学校・三万人、高等学校・二千人である（公立校）。

通級指導を受けている児童生徒が在籍する学校数のおおよその割合は、小学校・七十六％、中学校・五十一％、高等学校・十二％である。埼玉県として見ると、小学校・八十八％、中学校・五十五％、高等学校・五％であった。

今年で三十二年が経過し、今では児童生徒、そして、保護者のサポーターとなっている。これからも、一心の通う、通級指導は広がりを見せるだろう。

（関口循子）